

史料館この1年を振り返って

史料館にとってこの一年は近年にない変化と実りのあった年といえると思う。

◆財産区管理会との協議会設置

設置母体の財産区管理会と話し合う場を、協議会という形で明文化し制度化した。これまで、財産区の委員の方々と胸襟を開いて話し合う場があまりに不足し、意見交換をする場がなかった。言わなくても分かっても分かってもらえる、中身のある活動をしていれば理解してもらえる、と思い込んでいた。

思い返せば史料館を作った時の財産区管理会長の太田垣正雄さんは、村史の編纂を昭和十七年に着手した時の本庄村の助役。その後、昭和二十年の空襲で深江は焼け野原。村長代理として復興に奔走し、三十年を経て財産区管理会会長になった。村史に対する思い入れは誰よりも強かった。志井正雄さん、志井保治さん、岡田龍太郎さん、松尾福夫さん、深山健二さん、中尾久一さん、当時の委員はみなさん戦災でふるさとの焼失の悲惨な体験を持ち、歴史を記録することの大事さを言わなくても分かってもらえた。

でも今は違う。意味を丁寧に説明し理解してもらう努力が欠かせない。言わなくても分かっても分かってもらえるというのは、通用しない。協議会で顔を合わせて話し合う中で理解も進んだと思う。史料館の活動を財産区委員のSNSでPRしてもらえるなど、あるべき姿ができつつあると感じている。

◆ウクライナと深江文化村に焦点

展示も新たな展開があった。本誌で有吉研究員が報告しているように、今年度は深江文化村を舞台にした白系ロシア人やウクライナ人の存在に焦点を当てた。マスコミに取り上げられ、見学者も増えた。新たな寄贈品があった。第二次世界大戦中でも深江には白系ロシア人が居住し続けたという、新たな研究成果も生まれた。前年に行った地域の方々や東灘高校の生徒たちとの「深江音頭」復元の成果も企画展示で続けた。例年なら恒例の季節展示に切り替えるところだが、それをしなかったのは、地域と歩む史料館でありたいと願ったからである。

またしばらくなかった甲南大学の博物館実習も久しぶりに実施した。予定していたところでできなくなったとのことで、役割を果たせた。

地域や大学との連携、新たな史料の発掘、新たな研究成果、そして発信と、理想的な展開ができた一年でもあった。

◆本庄港のスケッチ画寄贈

ふるさとの懐かしい風景を描き続けた御影在住の田中邦彦画伯（故人）の絵画をお嬢さんの山田良子さんから寄贈を受けた。昭和三十七年ごろの本庄港の風景画などが含まれている。失われた風景の記録としてこういう収集もあっていいと思う。令和五年度に企画展示を予定している。

◆予約図書サービスの現状

神戸市立図書館の予約図書受取や図書返却サービスも堅調だった。令和四年度（二〇二二）統計は、貸出冊数は月平均一二三五・六冊、返却冊数は一二九五・七冊だった。貸出を利用

した人数は、月平均四六〇・八人で前年の四四七・四人を上回り、利用者のすそ野が広がった。毎月的人数・冊数は表の通り。

令和四年度は新型コロナウイルスの影響はあったが休館はなかった。一月に神戸市のコンピュータシステムの更新のため全休したため、総数は過去最高だった前年度には及ばなかったが高水準を維持した。全休前の十二月は単月で最高の一五五〇冊、また再開後の二月は一七二二冊の返却があった。

(文責・大国正美)

2022 年度図書貸出・返却実績

月	貸出人数	貸出冊数	返却冊数
4	453	1184	1259
5	437	1214	1280
6	418	1111	1139
7	528	1434	1536
8	432	1066	1060
9	387	935	1126
10	515	1372	1400
11	459	1321	1256
12	491	1550	1202
1	0	0	0
2	463	1130	1722
3	486	1275	1273
合計	5069	13592	14253
平均	460.8	1235.6	1295.7

史料館日誌抄

史料館副館長 道谷 卓

二〇二三年

二〇二三年四月～二〇二三年三月

4月2日 企画展「東灘高生が選んだ よみがえる「深江音頭」の風景」を好評につき延長(二〇二二年八月二七日まで)

5月27日 淡路景観園芸学校 (見学者 一〇名)

6月11日 神戸大学・甲南大学連携授業 (見学者 一五名)

9月3日 季節の展示コーナーを「中秋の名月」に展示替え (二〇月二二日まで)

24日 甲南大学学生一名、博物館実習のため受け入れ (二〇月二二日まで)

29日 東灘小学校三年生 (見学者 一四〇名)

10月22日 企画展「文化村今と昔の写真展 ウクライナ・ロシア友好の原点」展を開催(一二月二四日まで)

30日 兵庫県立歴史博物館友の会 (見学者 二三名)

11月22日 高羽六甲アイランド小学校三年生 (見学者 四〇名)

12月24日 季節の展示コーナーを「正月の風景」に展示替え (二〇二三年二月二五日まで)

二〇二三年

1月13日 本庄小学校三年生 (見学者 一四一名)

31日 福池小学校三年生 (見学者 一〇八名)

2月4日 東灘マイスターの会 (見学者 六名)

25日 兵庫歴史愛好会 (見学者 六名)

季節の展示コーナーを「ひな人形」に展示替え

資料寄贈者ご芳名

(敬称略) 二〇二三年四月～二〇二三年三月

森口健一／大国正美／永田美代／川口辰郎／田中裕行／浅岡俊夫／田中千尋／山田良子／中村司 (道谷 卓記)

『生活文化史』 第51号 2023・3・31

編集 集／大国正美
発行 神戸深江生活文化史料館

〒658-0021 神戸市東灘区深江本町3-15-17

☎ 078-145314980 (FAX兼用)

http://fukae-museum.la.coocan.jp/